

# 週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

## 2025 年度年間聖句

「良い土地に蒔かれたものとは、  
御言葉を聞いて悟る人」  
(マタイによる福音書 13 章 23 節)



### どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半  
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ~10 時  
祈 禱 会 各水曜日  
○昼の聖書研究祈禱会  
(第3・午後2時)  
●夕の祈禱会  
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準  
協力牧師 堂 本 陽 子  
協力牧師 井 東 炤

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65  
TEL. 0 4 2-7 4 2-1 5 9 3  
FAX. 0 4 2-7 4 2-1 3 9 3  
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>  
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計  
0 0 2 9 0-4-8 0 7 0 7

# 3202 2026 年 3 月 22 日

## 礼 拝 式 順 序

(受難節第 5 主日)

司式者 井 殿 準  
奏楽者 篠 原 有 貴

前 奏		奏 楽 者
招 詞	ヨエル 2 : 12 ~ 13a	司 式 者
讃 美 歌	2 9 6 「いのちのいのちよ」(1,3,6節)	一 同
聖 書	マルコ 1 0 : 3 2 ~ 4 5 (新 P. 82)	司 式 者
使徒信条	( 9 3 - 4 - A )	一 同
祈 禱		司 式 者
讃 美 歌	4 4 2 「はかりも知れない」	一 同
説 教	「愛する人となるために」	司 式 者
祈 禱		〃
讃 美 歌	4 3 8 「若き預言者」	一 同
献 金		〃
主の祈り	( 9 3 - 5 - A )	〃
頌 栄	2 8 「み栄えあれや」	〃
祝 禱		司 式 者
答 唱	4 0 - 6 「アーメン」	一 同
~ 「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう~		
報 告		司 式 者
讃 美 歌	9 1 「神の恵みゆたかに受け」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の奨励要旨

「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ」  
(マルコ 27 : 15 ~ 26、32 ~ 44)

イエスはゲッセマネの園で、死を前にした深い悲しみと恐れの中、「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい」と弟子たちに呼びかけられました。しかし弟子たちは眠り込み、イエスの苦しみに寄り添うことができません。「目を覚ましていなさい」というこの言葉は、たんに眠らずに起きていることを求めたのではなく、「わたしと共にいてほしい」というイエスの切実な願いの言葉でした。この出来事は弟子たちの弱さを示すと同時に、後の時代に生きる私たちへの呼びかけでもあります。聖書をとおして受難物語に向き合う私たちは、出来事を遠くから眺める傍観者ではなく、イエスの苦しみの前に立つ証人として招かれています。目を覚ましているとは、イエスの苦しみから目をそらさず、その現実の中にとどまることです。

受難物語に登場するポンテオ・ピラトはイエスの無実を理解していながら、自らの政治的地位や権力を失うことを恐れ、正しい決断を下すことができませんでした。善い行いを願いながらも、決定的な場面で行動しない彼の姿は、正しいと分かっていることから目をそらし、沈黙や妥協を選んでしまう私たち自身の姿と重なります。ここでは、「何もしない」という選択が、結果として不正に加担することになる現実が示されています。

十字架につけられたイエスは、「神の子なら自分を救え」という嘲りの言葉を浴びせられます。しかしイエスが自分を救おうとされなかったのは、苦しむ人々を救うという使命だけを最後まで見つめておられたからでした。イエスに従うとは、助けを求める時だけイエスを仰ぐことではなく、自分自身を決して救おうとされないイエスの生き方を受け入れることでもあります。イエスがたどる絶望と苦しみ十字架の道を共に歩かない限り、苦しむ人々の気持ちを理解することはできません。十字架につけられたイエスこそが愛のしるしだからです。

さらに、受難物語では強制的に十字架を担がされたキレネ人シモンの姿が示されます。彼は信仰の有無を超えて、黙って十字架を担ぎイエスの後を歩きました。十字架とは他者の苦しみであり、それを背負うとは苦しむ者と共に生きることを選ぶことです。受難物語の証人である私たちは、これからは登場人物として、今も苦しんでいるイエスの後ろを、十字架を背負って歩くように招かれています。(奨励・菊池重雄)